

宗教連合イニシアティブ憲章

前文

我々、全世界の諸宗教者、精神団体、先住民の伝統を汲む者は、日常の宗際協力を勧め、永続させて、宗教によって引き起される暴力を阻止し、地球を癒し、生とし生けるものを癒す、平和で公正な文化を作るため、ここに宗教連合イニシアティブを創設する。

我々は各々が持つ独自の伝統と祭儀、信仰を重んじる。

我々は他を尊敬することを重んじ、共に価値観と智慧を分かちあうことが、一切を利することと信じる。

それゆえ、我々の伝統に根ざし、お互いに依存する者として、地球共同体のために、我々は今、結束する。

我々は、平和で公正な文化を築くために結束する。

我々は、地球を癒し、守るために結束する。

我々は、紛争解決、癒し、和解の安全な場を築くために結束する。

我々は、信教の自由と表現の自由を支持し、すべての個人と民族の権利を守ることを国際法に盛り込むために結束する。

我々は、諸宗教、精神団体、先住民の伝統の智慧と価値観をもって、地球共同体が直面する経済や環境や政治や社会の難問に対処するよう、結束して責任をもって協力する。

我々は、すべての人、とりわけ社会から取り残されている人々に参加の機会を提供するために結束する。

我々は、活動するときも、しないときも、天のみ恵みを受ける喜びと智慧の光を讃えるために結束する。

我々は、深い真理に目覚め、生とし生けるものへの愛と正義を表すために力を合わせ、非暴力の思いやりある行ないをなすために結束する。

目的

宗教連合イニシアティブの目的は、日常の宗際協力を勧め、永続させて、宗教によって引き起される暴力を阻止し、地球を癒し、生とし生けるものを癒す、平和で公正な文化を作ることにある。

方針

- 1、 宗教連合イニシアティブは橋渡しする組織であって、一宗教ではない。
- 2、 我々は諸宗教、精神団体、先住民の伝統が持つ聖なる智慧を重んじる。
- 3、 我々は諸宗教、精神団体、先住民の伝統の相違点を重んじる。
- 4、 我々はお互いに理解を深め、信頼を築くために敬意をもって耳を傾けると共に語る。
- 5、 我々は人を厚遇すると共に、人の厚遇を受け入れる。
- 6、 我々は相違を賜物として歓迎し、差別しない模範的態度を求める。
- 7、 我々は暴力に訴えることなく、癒しと和解により紛争を解決する。
- 8、 我々は環境保護のため、現在と未来の世代のために地球を守る。
- 9、 我々は他の宗際団体に協力を求めると共に、自らも協力を申し出る。
- 10、 我々は前文、目的、方針に同意する個人、組織、協会をすべてメンバーとして歓迎する。
- 11、 我々は該当者をすべて含めた地域レベルにおいてのみ決定権を持つ。
- 12、 我々は、方法、規模、分野の如何を問わず、前文、目的、方針に関連する活動と課題を、執り行う権利を持つ。
- 13、 我々は、関係者の様々な利害を公平に扱い、組織として方策を尽して、あらゆるレベルで審議し、決定するべきであり、いかなる支配も受ける

- ことはない。
- 1 4、我々（URI の各パート）は、前文、目的、方針を遂行するために必須の自治権と才量に限って、それらを委ねるものである。
 - 1 5、我々は各パートの要求を満たし、他のパートを支援できるだけの財源や才量を伸ばす責任を持つ。
 - 1 6、我々は清廉で道徳的な行ないの高い水準を維持し、分別を持って資源を活用し、公正で正確な情報を公開する。
 - 1 7、我々は組織として、他から学び、状況に順応する姿勢を保つ。
 - 1 8、我々は前文、目的、方針に沿い、URI の精神に沿って、全ての言語を重んじ、参加者が憲章、付則、関連文書を翻訳する権利と責任を重んじる。
 - 1 9、URI のメンバーが祭儀への参加や改宗を強制されることはない。

機構構想

加入者

URI の前文、目的、方針を評価し、支持する個人、協会、団体は加入者となることができる。加入者が URI の情報伝達、活動に参加することを歓迎する。ただし、メンバーの法的権利と責任を有する者ではない。

メンバー

URI のメンバーとなることを求める個人、協会、組織は、協働サークル（CC＝コーポレーション・サークル）を作るか、既存の CC か、複合協働サークル（MCC＝マルチプル・コーポレーション・サークル）か、多元複合協働サークル（MMCC＝マルチ・マルチプル・コーポレーション・サークル）に加わることにする。メンバーは、それらの CC、MCC、MMCC において前文、目的、方針に従って各グループが規定する参加の権利と責任を持つ。

CC、MCC、MMCC は、世界議会に関して投票権を持つ URI のメンバーであり、それに伴う法的権利と責任を有する。

協働サークル (CC=コーポレーション・サークル)

URI の基盤は、CC を創設する人々、また CC に加わる人々のイニシアティブ (主唱、率先) であり、精神であり、尽力である。すべての CC は独自の目的、メンバーの地位、決定方法を定める権利と責任を持つ。

初期の安定性と宗際的多様性を保つため、CC は最低 3 つの異なる宗教、精神団体、先住民の伝統を代表する、最低 7 メンバーを持たなければならない。CC は個人、協会、組織を受け入れることができる。CC のメンバーは、前文、目的、方針に沿って行動するよう、お互いに助け合うことが望まれる。

複合協働サークル (MCC=マルチプル・コーポレーション・サークル)

と多元複合協働サークル (MMCC=マルチ・マルチプル・コーポレーション・サークル)

一つの CC は、そのはたらきを高め、より永続性をもつ調整機構を作るため他の CC と連結することを決めることができる。最低 3 つの CC が集まれば、MCC を組織することができる。

同様の理由で最低 2 つの MCC が集まって、MMCC を組織することができる。例えば、別々の都市に所在する CC が国内で調整機構を作り、MCC を創設したいと望むかも知れない。同様に、別々の国に所在する MCC が地域全体の調整機構を作り、MMCC を創設したいと望むかも知れない。

また、世界各地の子供たちに宗際活動について教育することに専心する CC は MCC を創設して、自分たちの考えと、方策を伝えたいと望むかもしれない。彼らが望むときは、他の個人、協会、組織が自分たちの MCC に加わることを受け入れることができる。一般的に MCC の会合では、各 CC から一名か二名の代表が集まって、MCC の作業を行なう。

CC は一つ以上の MCC に所属することを選ぶことができるが、世界議会の評議員の投票は一つの MCC を通じてのみ、それを行なうことができる。一つの MCC に所属する CC は、その MCC のメンバーによって立案された評議員選定手続きに参加する。一つの MMCC に所属する MCC は、その MMCC のメンバーによって立案された評議員選定手続きに参加する。

法律上の権利と責任

- ◎各 CC、MCC、MMCC は URI の前文、目的、方針、さらに細則、条項、運営
手続に沿って、その目的を成し遂げるために最善を尽す責任を持つ。
- ◎各 CC、MCC、MMCC は前文、目的、方針に沿って、いかなる方法、規模で
の課題や活動も自由に計画することができる。
- ◎各 CC、MCC、MMCC は前文、目的、方針に沿って、管理、決定において独
自の方式を裁定する権利と責任を持つ。
- ◎CC、MCC、MMCC は、世界議会の評議員を選び、細則で規定される特定の課
題に付いて投票する権利と責任を持つ。
- ◎CC、MCC、MMCC はそれぞれの要求を満たし、他の URI のグループを支援
できるだけの財源や才量を伸ばす責任を持つ。CC、MCC、MMCC と世界議
会は URI のすべてのパートを支援する建設的な方策を求める。世界議
会は URI の代表として行動し、URI の世界規模の活動を支持するため CC、MCC、MMCC
から賦課金を要求することを選択してもよい。

入会の申請

新しい CC は直接世界議会上に、または既存の MCC か MMCC に入会を申請
することができる。

同様に、新しい MCC は世界議会上か MMCC に入会を申請できる。新しい MMCC
は直接世界議会上に入会を申請する。

世界議会

世界議会上の主な目的は前文、目的、方針で謳っている価値観を明示すること
である。前文、目的、方針に沿って務めを推し進めるのは中央本部ではなく、連
結体である。世界議会上は URI 全体の希望と抱負を聴く耳である。世界議会上は
世界中の URI が CC、MCC、MMCC の全ネットワークの要求を満たすよう導くも
のである。世界中の協働という大胆な構想で世界の活動を活気づけ、URI を支
える。

世界議会評議員

世界議会上の構成員を評議員と呼び、世界の URI メンバーの信頼を強める者であ
ることを意味する。評議員は URI に対する法的責任を持ち、全世界の URI 団体
を指導し調整する。

URI の評議員は指導者の模範として行動することが求められる。彼らの心と精神は、URI の人々が世界の建設的な力でありたいという熱望を叶えることを切に望むであろう。彼らの審議はお互いへの、そして生きとし生けるものへの思いやりのゆえに和らぎ、彼らの審議や行動のうちには、怒りや利己などは見当たらないであろう。

構成

- ◎全世界のメンバーによって、8地域ごとに選任される評議員は24人を上限とする。
- ◎特定の専門知識や、もっと多様性が必要なとき、世界議会が選ぶ、全体にわたって配慮する評議員は12人を上限とする。
- ◎既存の URI 理事会の理事からなる移行諮問委員会の委員の互選による評議員は3人を上限とする。移行諮問委員会は2005年6月まで存続する。
- ◎URI の創始者のユニークな役割を讃え、創始評議員とする（一人）。
- ◎URI 職員の代表を確保するため、執行評議員とする（一人）。

評議員の選考手順

世界議会に地理的な多様性を保つため、24席は選挙によって満たされる。CC、MCC、MMCC は、下記の地理上の8地域内から各々3人まで評議員を選ぶことができる。アフリカ、アジア、太平洋、ヨーロッパ、ラテン・アメリカとカリブ海、中東とアラブ諸国、北アメリカの7地域は国連の区分に基づいて境界を定める。8番目としては、地理上の区分でなく、世界規模の組織を持つ CC、MCC、MMCC を含むものである。

評議員は2年に一度選ばれて、世界議会の職務を行なう。

可能な限り多様性を保ち、世界議会における特定の専門知識の必要性を満たすため、12席は世界議会の任命によるものとする。

内省や瞑想、祈りを通じて指導者としてあるべき資質を深く理解し、人の模範となることが、評議員の選考に際して求められる。

全体の世界集会

2年に一度、全体の世界集会を異なる開催地にて開くものとする。メンバーと加入者の参加を歓迎し、集会にて諸活動を共に催すよう奨める。

世界集会の目的は人々がお互いの話に耳を傾け、助け合って難問に挑戦し、未来への可能性を探ることである。世界集会はメンバーの夢と独創力を推し進める力を強める。人々の能力を集め、声を集め、討論の場を提供する。世界集会は URI 全体の祝賀であり、人を温かく迎えると共に、自らも人の歓迎を受ける好機を提供する。

世界集会において、CC、MCC、MMCC が世界議会の評議員を選考するメンバーの会議を行なう。また CC、MCC、MMCC が対応を必要とする課題や意見を提出できる。もし CC、MCC、MMCC で集会に参加できないときは、委任状による投票を受け付ける。

行動指針

本来 URI は、メンバーの希望によって行動を自由に選択できる自治組織であり、下記の活動計画が URI 行動指針となる。ママユ・ハユニング・バワノ（生とし生けるものの安全、幸福、福祉のために働く）というジャワの言葉にちなんで、URI は下記の分野への考察に基づき、道徳の声、行動の源として尽力する。

伝統的信仰の智恵と文化を分かち合う—世界の諸宗教、精神団体の対話ときずなを深める活動

癒しと平和の文化を育てる—一人々が暴力に怯えることなく生きられる文化を進める活動

権利と責任—人権を守る活動

環境保護の命令—全地球共同体の福利（健康）と癒しを守る活動

持続可能な公正な経済—甚だしい貧富の差を是正する活動

URIの総合的な支持—URIの全活動を支持する地域的、世界的活動